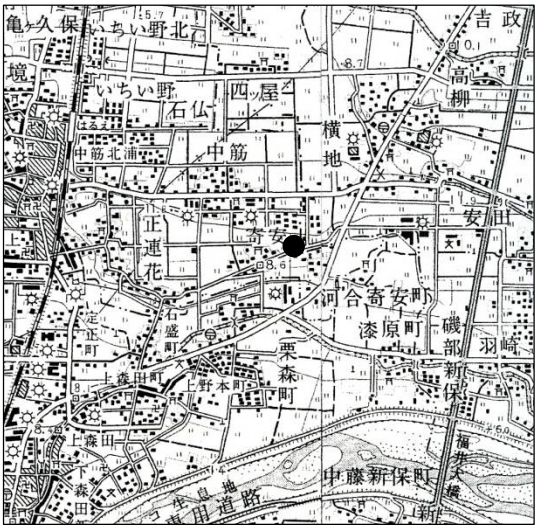
５.寄安（よりやす）・栗森（くりもりいせき）遺跡

所 在 地：坂井市春江町寄安地係
調査原因：一般県道福井森田丸岡線道路改良工事
調査期間：令和元年６月３日～８月 30 日
調査主体：福井県教育庁埋蔵文化財調査センター
調査面積：848 ㎡
時　　代：弥生時代後期末、鎌倉時代後期、室町時代前期



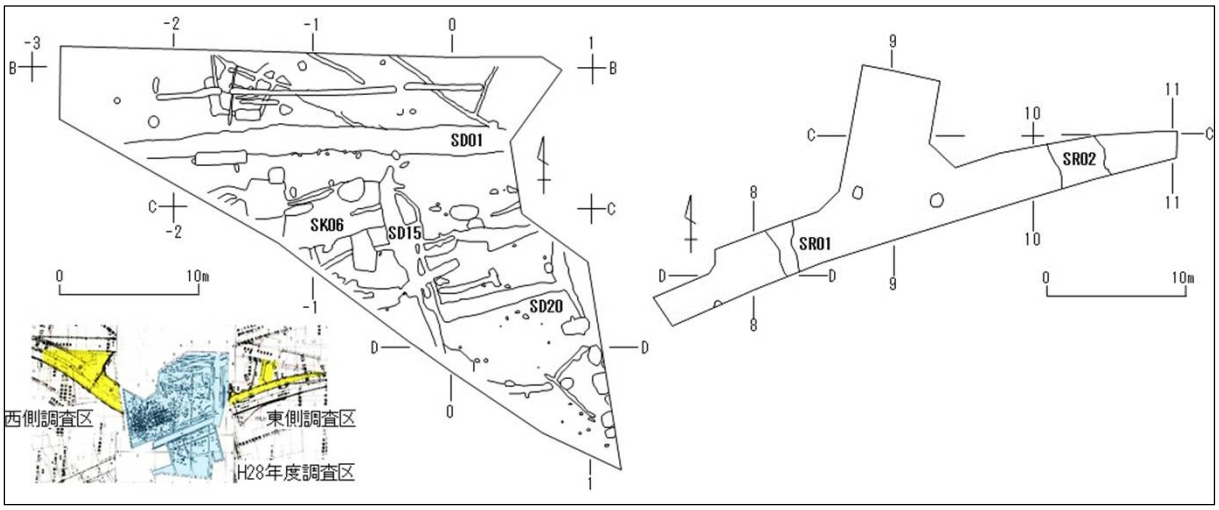
位置図（S＝1/50,000）

調査の概要　遺跡は坂井平野の南部に位置し、磯部川左岸の自然堤防上に立地します。西側調査区の旧地形は､大半が微高地で北端が低地にあたり､北方へ緩やかに傾斜しています。東側調査区の旧地形は低地であり、東方へ緩やかに傾斜していました。土層は、両調査区とも全体に現代の客土である褐色粘質土が堆積していました。次に微高地は、遺物包含層の暗黄灰色粘質土、地山である黄褐色粘質土又は砂質土、低地では埋土の暗青灰色粘土、地山である緑灰色粘質土の順で堆積していました。

遺構　西側調査区では溝（SD）29 条、土坑（SK）14 基、ピット（SP）約 60 基を検出しました。調査区のほぼ全体に分布し、溝は大半が東西方向にのびます。土坑とピットは南半にややまとまる状況でした。SD01 は、位置や形状及び方向から H28 年度調査区の SD02 の続きであり、屋敷地境の溝と考えられます。SD15 は、他の溝と直交して南北方向にのび、屋敷地の区画溝と推察されます。SD20 は、人頭大の平石数点が底部付近でほぼ等間隔に据えられた状況で検出され、土師質土器皿や漆器椀等が出土しました。SK06 は、大形方形状で覆土上部から越前焼甕等と握拳大程の礫がまとまって出土しました。東側調査区ではピット（SP）数基、旧河道（SR）２条を検出しました。H28 年度調査区の SD01 が、調査区南端から区外にかけて現道下を南西から北東にのびると推察されます。

遺物　コンテナ９箱分あり、大半が西側調査区から出土しました。中世の土師質土器、越前焼、瀬戸美濃焼等の他に弥生土器も僅かにあり、木製品では漆器椀等が数点出土しています。包含層から４割、遺構から６割が出土し、特に SD01・15・20 と SK06 から多く出土しています。

まとめ　遺跡の時期は弥生時代後期末もありますが、鎌倉時代後期と室町時代前期が中心です。中世の二時期が重複しますが遺構の分布状況からみて、西側調査区の南東部は H28 年度調査区で検出した屋敷地の北西端にあたり、SD15 以西には他の屋敷地がひろがるとも考えられます。　（田中勝之）



第１図　調査区割と平面略図（縮尺1/700・任意）

写真１　西側調査区全景（南東より）

写真２　東側調査区全景（南西より）

写真３　SD01（東より）

写真４　SD20（東より）

写真５　SK06出土遺物（南より）

写真６　SD20出土遺物①（南より）

写真7　SD20出土遺物②（北より）